

北日本新聞

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
〒930-0094 電話076-445-3300
©北日本新聞社 2012
2012年(平成24年)
8月31日
金曜日
ウェブ新聞 webun
http://webun.jp

高効率発電事業に参画

魚津・ダイヤモンドエンジニアリング

石炭ガス化設備受注

17年中国電火力で実証試験

プラント設計施工のダイヤモンドエンジニアリング(魚津市沢田、藤崎晋也社長)は30日、中国電力(広島)と電源開発(東京)の共同出資会社「大崎クールジェン」(広島)から、高効率の発電が可能な石炭ガス化複合発電(Ⅱ)の実証試験設備の一部を受注したと発表した。実証試験は、経済産業省の「ゼロエミッション石炭火力発電」の実現に向けた重要プロジェクトの一環。微粉化した石炭をガス化炉に供給する設備などを担当する。富山で育まれた技術が、国家的なプロジェクトに生かされる。

石炭は資源埋蔵量が豊富で、火力発電の燃料として広く使われている。しかし、二酸化炭素(CO₂)排出量が多いため、排出削減や発電設備の高効率化が課題となっている。経済産業省は、石炭ガス化複合発電とCO₂回収技術を組み合わせた「ゼロエミッション石炭火力発電」を実現しようとして、大崎クールジェンの実証

プロジェクトを支援している。ダイヤモンドエンジニアリングが受注したのは、石炭を微粉化する設備と、微粉化した石炭などをガス化炉に定量供給する搬送設備。受注金額は公表していない。搬送設備は、親会社の日本カーバイド工業魚津工場(魚津市本新)内に整備した実験設備で2年前から準備を進めてきた。

電力安定供給に貢献

火力発電は、原子力発電に代わる発電として注目度が高まっている。火力発電の燃料には天然ガス、石炭、石油があるが、世界中に点在する石炭は最も価格が安定しており、供給が途絶えるリスクが低い。経済産業省が石炭ガス化複合発電の研究を進めるのは、こうしたエネルギー安全保障上の問題があるからだ。

今回の国家的な実証試験を担う設備を、日立製作所、日揮といった大企業と並んでダイヤモンドエンジニアリングが受注したのは画期的なことと言える。同社が受注した設備の一つは、粉状の石炭をガス化炉に供給する設備がある。ガス化炉は高温高圧で、粉状の物体を安定的に定量供給するのが非常に難しい。同社は製鉄所向けに、微粉炭や石灰、鉄粉を高炉などに供給する技術を提供している。これまでに培ってきた技術が評価され、受注に結び付いた。

石炭をガス化するメリットは、高効率な発電を可能にする

だけでなく、これまで工業用に適さないと言われてきた褐炭などの低品位炭が使えるようになり、燃料にできる資源量が増える計算になる。

ダイヤモンドエンジニアリングの藤崎晋也社長は「プロジェクトに参画することで、日本の電力の安定供給に貢献したい」と意気込む。「石炭ガス化複合発電所」が実現すれば、富山の技術が日本のエネルギー政策を支えることになる。

(経済部・荒木佑子)